算数科学習指導案

指導者　宮内　佑京
和田　今日子

１　日　時　令和２年　10 月　８日（木）　第６校時（14:10～14:55）
２　学　年　第３学年　１組　男子　17 人　女子　18 人　計　35 人
３　単　元　わり算を考えよう　あまりのあるわり算
４　単元について

単元について

本単元は，学習指導要領「Ａ　数と計算」（４）「除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。」ア（ア）「除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知ること。また，余りについて知ること。」（イ）「除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること。」イ（ア）「数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考えたり，計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。」を受けて設定されたものである。

児童は，第２学年で，乗法について，数量の関係に着目し，乗法の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることなどを学習してきている。第３学年では，除法の意味および除法と乗法や減法の意味について理解するとともに，除数と商が共に１位数である除法の計算を学習する。このとき，計算の仕方を形式的に知るだけでなく，除数の計算の仕方を主体的に考えたり，計算に関して成り立つ性質を見いだし，その性質を計算の工夫や確かめに活用するとともに，日常生活に生かす態度を育むことが主なねらいである。

児童の実態

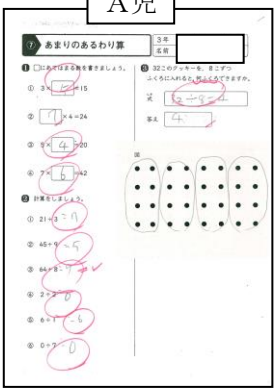
① レディネステストの結果

項目	正答者（人）	誤答の様子
乗法を使用する問題	35/35	なし
あまりのない除法の計算をする問題	29/35	除法の計算ができない。乗法と除法が混同している。
あまりのない除法の計算をする文章問題	28/35	除法の計算ができない。単位を間違えている。丸図を正確に囲めていない。

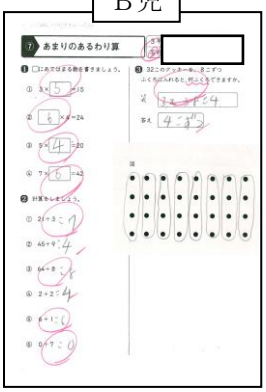
② 対象児童の実態と要因

本学級には二人の対象児童（A 児，B 児）がいる。対象児童のレディネスの結果は右の通りである。二人とも学習内容の理解，定着までに多くの時間がかかるため，九九やあまりのない除法のプリントやドリルに複数回取り組み，学習内容の定着をはかった。結果，レディネステストでは，A 児は全問正解だった。しかし，B 児は除法の計算に誤りが見られたり，丸図を使って解答する際に誤りが見られたりした。また，文章問題の答えの単位にも誤りがあった。このことから，除法の定着ができていないこと，除法の意味を理解できていないこと，問題の読み取りやイメージ化が困難であることが考えられる。

A児



B児



指導にあたって

指導に当たっては以下の３点について留意する。
① 余りの意味や表し方を理解させるため，計算の仕方を形式的に指導するのではなく，図を用いた数学的活動を取り入れる。
② 余りの大きさに注目させるため，板書に枠を作ったり，図に表したりするなどの視覚的支援をする。
③ フォローアップ児童が問題に取り組みやすくするために，かけ算の九九表や丸図，練習問題の説明を穴埋めできるワークシートやヒントカードを用意する。

５　単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し，それらを活用して数量の関係をとらえる技能を身に付ける。	数量の関係に着目し，わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ，除法の意味や計算に成り立つ性質について考え，表現する力を養う。	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

６　単元の指導計画と評価規準　（全８時間）

次	時	学習内容	知・理	思・判・表	態度	評価規準	評価方法
一	1	数量の関係に着目して余りのある包含除の計算の仕方を考える。	○	◎		既習の除法の計算方法を用いて，わり切れない場合の除法についても計算することができる。 わり切れない場合の除法の計算の仕方について，既習のわり切れる場合の除法を基に考え，図や式を用いて説明している。	発言 ノート
	2	余りと除数の関係を理解する。	○			余りが除数より小さくなることを理解し，計算することができる。	発言 ノート
	3	包含除の計算の仕方から類推して余りのある等分除の計算の仕方を考える。		○		わり切れない場合の等分除の計算の仕方を，既習の等分除の計算の仕方を基に考え，具体物や図，式などを用いて説明している。	発言 ノート
	4	余りのある場合の除法計算の答えの確かめ方を理解する。	○			わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。	発言 ノート
	5	余りのある場合の除法の計算練習，文章問題の解決をする。	○			わり切れない場合の除法の計算の商や余りを求めたり，確かめたりすることができる。	発言 ノート
二	6	問題場面に応じて，余りのとらえ方を考える。		◎	○	商や余りの意味に着目して，問題に応じた商の処理の仕方を考え，説明している。 計算した結果を吟味したことを振り返り，学習に生かそうとしている。	発言 ノート
三	7	学習内容の習熟・定着を図る。	○	○		基本的な問題を解決することができる。	ノート
四	8	単元末テストを行う。				わり切れない場合の除法の計算や余りの大小関係を理解し，それらを活用した除法の計算の仕方を身に付ける。	